

平成 27 年度第 1 回遺伝子・プロテオミクス技術委員会議事録

日時： 平成 27 年 4 月 24 日（金） 16:00-17:30

開催場所：ホテル ニューキャッスル曙 A

（〒036-8354 弘前市上鞆師町 24-1）

TEL0172-36-1211

出席者（敬称略）

渡邊直樹 臨床検査医学研究所、日本臨床検査自動化学会理事長
野村文夫 千葉大学医学部附属病院マスペクトロメトリー検査診断学
中山智祥 日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野
糸賀 栄 千葉大学医学部附属病院検査部
青木留美子 日本大学医学部附属板橋病院臨床検査部
南木 融 筑波大学附属病院検査部
村上正巳 群馬大学大学院医学系研究科病態検査医学
松下一之 千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学
中西豊文 大阪医科大学臨床検査医学教室
日高恵以子 長野県立こども病院生命科学研究センター
曾川和幸 麻布大学生命・環境科学部
渡邊正治 千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部
中條聖子 SRL 遺伝子・染色体解析センター
細貝昇代理橋本英也 LSI メディエンス株式会社 診断検査事業本部 臨床検査事業部
森 篤雄 (株)ニッポンジーン
山崎正稔 シスメックス株式会社 学術部
三浦俊昭 ロシュ・ダイアグノスティクス 製品学術部門
遺伝子検査部 アプリケーションラボグループ

議事内容

1. 新委員、新役職、WG の紹介（資料 1）
2. 前回議事録の確認（資料 2）
3. 委員会の活動目標についての討議（資料 3）
 - 1) *BCR-ABL1* mRNA 定量検査 WG 報告（資料 4）
 - 2) MALDI-TOF MS による微生物迅速同定 WG 報告（資料 5）
 - 3) 全自動遺伝子解析装置評価 WG 報告（資料 6）
 - 4) 臨床遺伝分野への人材の積極的な参画の支援（資料 7）

- 5) 技術セミナーの内容について
4. 第 47 回大会時に開催の「技術セミナー 参加のお願い」原稿依頼について
5. その他

配布資料

- 資料 1 遺伝子・プロテオミクス技術委員会会員名簿
- 資料 2 平成 26 年度第 2 回委員会議事録 (案)
- 資料 3 遺伝子・プロテオミクス技術委員会の目標について
- 資料 4 *BCR-ABL1* mRNA 定量検査 WG 報告
- 資料 5 MALDI-TOF MS による微生物迅速同定 WG 報告
- 資料 6 全自動遺伝子解析装置評価 WG 報告
- 資料 7 第 11-15 回遺伝子・プロテオミクス技術委員会セミナー
- 資料 8 第 15 回遺伝子・プロテオミクス技術委員会セミナーアンケート結果
- 資料 9 他学会への参画の支援

議事内容

1. 中山委員長より挨拶の後、会議がはじめられた。
2. 委員長より新役員の紹介後、各委員より自己紹介が行われた。(資料 1)
3. 平成 26 年第 2 回前回議事録 (案) が報告され、承認された。(資料 2)
4. 委員会の活動目標 (平成 27~29 年) (資料 3) に沿って議事が進められた。
5. *BCR-ABL1* mRNA 定量検査 WG 報告 (資料 4)
 - ・糸賀 WG 代表より *BCR-ABL1* mRNA 定量検査の外部精度管理を 12 施設で実施し、参加施設に参考 IS 変換係数を報告した経緯と IS 表示に必要とされる WHO 標準品、二次標準物質 2 社 ARQ IS Calibrator Panels (Asuragen 社) PHILADELPHIA P210 RNA reference (ELITech 社) の資料説明と使用経験について報告があった。
 - ・野村委員より国際的に用いられている 2 次標準物質を用いれば home-brew 法によるデータは論文発表や臨床試験において IS 表示と同等とみなし得るかどうかについての質問を受けることがあるので、この点の確認が必要とのコメントがあった。
 - ・白血病関連検査アンケート結果からは保険適用キットは検査センターなどで使用され始めている状況であるが、高額なためや使用機器にしばりがあるなどの理由により 13 施設中 7 施設で導入予定はないとの結果であった。これに対し、販売メーカー側よりキットの価格改定により、1 度に 7 症例まとめて検査すれば、プライマーやスタンダードなどの調整を考慮した場合、保険適用キットはそう高いものにならないとの意見であった。

- ・今後は、ISO で必要となる白血病関連遺伝子検査の外部精度管理の実施。測定キット導入にむけた他施設との意見交換や情報収集の場としてメールを使った交換を考えている。末梢血からの RNA 抽出法の標準化も WG より提案していきたいと報告があった。

6. MALDI-TOF MS による微生物迅速同定 WG 報告 (資料 5)

中西 WG 代表より平成 26 年度の活動報告があった。一般細菌に関しては問題ないが、他の細菌に関しては多くの問題点がある。27 年度の WG の活動としては、標準化の第一目標として、前処理法 (スミア法、オンプレート法、抽出法) に絞って検討・評価し学会発表や専門誌投稿にて啓蒙したいと報告があった。

- ・委員会からは、従来法とどのようにマッチさせるか (従来法と MALDI-TOF MS による微生物迅速同定の組み合わせ、費用や人材に関する運用など) 実施施設の経験をセミナーなどで発表して欲しいと意見があった。

7. 全自動遺伝子解析装置評価 WG 報告 (資料 6)

所用で欠席の渡邊 (淳) WG 代表にかわり糸賀委員により報告があった。活動の経緯と内容について、全自動遺伝子解析装置の比較表 (資料 2-1) では、今年度 4 月以降に変更があった箇所を黄色の背景としたと説明があった。今後は、ユーザー側を対象とした全自動遺伝子解析装置のアンケート調査を実施したいと報告があった。

- ・野村委員より機器の大きさが大型～小型までさまざまであるが、次のステップとしてこのままのラインナップにするかまたは、比較の対象や目標をある程度特化したほうが良いのではと提案があった。

- ・委員長より各施設に導入されている機器の種類 of 調査も必要である。また、使い勝手の良さの評価はどうか? 全自動でできるメリットを考慮すると小型機器に特化した調査など、今後も引き続き検討していくこととなった。

8. 臨床遺伝分野への人材の積極的な参画の支援 (資料 9)

委員長より他学会の参画支援について情報提供があった。日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会の企画で都内の高等学校生物の先生と臨床遺伝について医学部授業での対応のしかたなどについて情報交換している。また日本人類遺伝学会委員会として高等学校生徒を対象としたサイエンスカフェを企画している。日本遺伝子診療学会ジェネティックエキスパート認定資格のメリットと役割について説明があった。

9. 技術セミナーの内容について

今年度技術セミナーの企画と内容について討議された。

- ・次世代シーケンサーの講演会と実習の企画、野村委員から実施施設からの声を参考

にしてはどうかとの意見があった。

- ・前回の委員会において、講演会のテーマの一つにリキッドバイオプシーを取り上げ本委員会の委員（佐賀大の末岡先生）に依頼することが内定している旨の指摘が野村委員からあった。MALDI-TOF MS 関連の講義、実習の内容についてのコーディネーターは曾川委員が担当することとなった。

10. その他

- ・委員長より遺伝学的検査の国際的表記法についてまとめることによって正確な遺伝学的検査報告書の書き方を啓蒙したい。疾患の原因となるバリエントか多型（個人差）となるバリエントかなど具体的症例の提示が望まれる。今後 **incidental findings** の取り扱い方などのコンセンサスも必要となる。日本臨床検査自動化学会のホームページまたは、冊子にするなどして公表したい。

- ・これに伴い、糸賀副委員長より次世代シーケンサーを使った場合、検索に伴うデータの倫理的問題が生ずるため委員会としての方向性について示して欲しいと意見があった。

- ・9月19日(土)に浜松アクティビティにおいて医用質量分析認定士講習会（日本医用マススペクトル学会）と認定試験があります。

11. 次回委員会は、10月8日（木）パシフィコ横浜で開催する予定である。